旭川
上川
旭川支社
▷報道 0166・21・2516
FAX21・2517

2025年（令和7年）9月21日（日曜日）　北海道新聞

者に関心を持つ必要性を伝えた。泉さんは「去年は思うように伝えられず全道大会に出場する。（池田有珠）

旭工、旭南 コールド発進

羽幌・上富良野は敗退

秋の高校野球予選 旭川支部

20日は旭川スタルヒン球場でBブロック2回戦2試合を行い、旭工と旭南がそれぞれ五回コールド勝ちし、準決勝に駒を進めた。

旭工は一回、横山の適時二塁打などで3点を先取。その後も着実に加点し、東川を圧倒した。旭南は4点リードの四回、滝本の本塁打を含む9安打で一挙11得点。羽幌・上富良野打線を2点に抑え大勝した。

▽Bブロック2回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
旭東	3	0	0	1	0	0	0			4
旭工	3	1	1	5	X					10

（五回コールドゲーム）

（東）田中、寺尾―平山（工）東海林、板垣、新村、大塚、横山―横山、井上

▽二塁打　横山、橋本（工）

羽幌・上富良野　0　0　0　1　1

旭　南　0　2　0　3　1　1　X　16　2

（五回コールドゲーム）

（羽）杉沢、広谷、杉沢、高畠―大田（南）谷口、佐藤―岩渕

▽本塁打　滝本（南）

▽三塁打　谷口（南）

▽二塁打　大田（羽）、滝本（南）

▼「一緒に戦えてよかった」　今大会唯一の連合チーム、羽幌・上富良野は四回の大量失点が響き、コールド負け。この回2失策も絡み11失点。「エラーが出たときうまく声かけができず、ピッチャーのリズムも崩れてしまった」。主将の大田（羽幌2年）は敗因を分析した。

各校5人ずつの連合チーム。距離の問題もあり、連合を組んでの練習試合は4試合だけだったという。「練習試合で勝てたときは一体感を感じてうれしかった」と話す一方、「もう少し一緒に練習する機会があれば」と後悔もにじませた。

四回、公式戦初という適時打を放ち、一矢報いた佐藤（羽幌1年）は「一緒に組んで戦えてよかった」と、チームメートに感謝した。（野津凱）

試合結果は「道新デジタル」、道高野連のホームページなどで速報します。

〔羽幌・上富良野―旭南〕ゲーム終了後、ベンチ前で整列する羽幌・上富良野の選手たち（打田達也撮影）

◇旭川支部（旭川スタルヒン）

〈Aブロック〉
- 旭明成 8-3 旭志峯（26日10:00）
- 旭永嶺 5-4 旭農（28日10:00）
- 旭実 12-1 旭龍谷（26日12:30）
- 旭北 9-2 富良野

〈Bブロック〉
- 旭工 10-0 東川（27日10:00）
- 羽幌・上富良野 16-2 旭南（28日12:30）
- 旭高専 21日10:00 留萌（27日12:30）
- 旭東 7-0 旭西（21日12:30）
- 旭商